

令和6年度まちづくり懇談会 湖東地区

日時 令和6年10月28日（月）
午後7時00分～午後8時30分
場所 湖東地区コミュニティセンター

人口減少対策について

意見要旨	説明・回答要旨
総合計画を策定する前提の状況で、少子化についての説明は6市町村でのトータルだが、6市町村にはそれぞれ特色があるため、他市町村の人口減少対策の成功例などあるか。	（市長） 各自治体、少子化対策を一生懸命やっている。原村も周辺自治体と一緒に行政運営をしなければいけない部分もあり、茅野、富士見の三市町村で施策を行っている。ただ、茅野市の現状は、負担割合が人口割で8割と負担が多い。町村は、他に頼りながらやれる部分があるので、集中投資しやすいが、茅野市の場合は、総合的に投資していかなければいけないため違いが出る。長野県の中でも茅野市は移住者が多い方で、早くから移住交流事業を始めていて成果がでてきている。どうしてもマスコミから伝えられるものは一元的なとらえ方が多いので、多角的に見ていくと違う部分があると思う。

市の文書のわかりにくさについて

意見要旨	説明・回答要旨
今回のまち懇の資料に限らず、最近、茅野市のいろんな資料を見ていて、言葉の遊びが多すぎると思う。表題がぴんとこないものが多い。「若者に選ばれるまち」については、わかりやすい表現で非常にいいなと思ったが、今回は資料の「緩和」と「適用」がよくわからず、書いてある内容はどちらも「適用」ではないかと感じた。もっとストレートに伝わる言葉で書いていただいた方が伝わるのではないかな。	（市長） なるべくわかりやすくと思い、職員も頑張って書いてると思うが、表現がうまくいかない場合もあると思う。しっかりとストレートに伝わるものを出せるように頑張っていきたい。「若者に選ばれるまち」も当初はご批判をいただいた。しかし最近他の自治体が使うようになってきて、長野県まで真似をしてきている。確かにあれはストレートな表現で、良かったのではないかなと思っている。 さまざまな工夫をして、しっかりとお伝えできるような形を作っていきたい。緩和と適用も、ある程度わかりやすくしようと思って分類した部分があるので、両方に関わってる部分も結構あると私どもも承知している。

学校再編について

意見要旨	説明・回答要旨
これからの学校のあり方に関わる素案検討委員会が4回で終わり、次に地域対話を実施するというので、地域対話の日程調整等で悩んでおられるとお聞きして1つ提案したい。子育て世代の親の意見を聞きたいならば、託児は必ず必要だと思う。子どもを預けることができれば、保護者も安心して参加できる。 また、子どもの未来に関して、仕事をしている人が希望を持って働けるような環境になればよいと思う。私は移住者だが、茅野市教育の最大の魅力だと思っているのは里山教育で、山側の学校区は大きい、山が見えて地域との距離も近いと思う。山間の皆さんもとても地域の子どもたちを愛しているのを感じていて、ぜひ茅野市の魅力として残していくなかで再編成を考えて欲しいと思う。 その里山教育をどう残すかというときに、前回の未来の学校プロジェクトで教育長から、茅野市は寺子屋が全国的に見ても多かったと聞いて、学校教育課が出されている縄文のビーナスプランという教育方針はまさに寺子屋そのものと思った。寺子屋のように地域に学びの場所も残しつつ、統合が必要な場合は統合を検討するために地域の方とアイデアを出し合っていくような進め方をしていたければと思う。	(市長) 様々のご提案、ご意見がいただけることに感謝する。 (教育長) 職員みんなで心を1つにして、子どもたちの将来を考えて、ご提案いただいたような地域対話の進め方を考えている。子どもたちも地域の誇りを感じているので、子どもの意見を聞くことも考えている。全国各地で統廃合が進んでいて、その進め方は、教育委員会や市からの提案について保護者や地域の方と議論して、1年くらいでほとんどが結果として統廃合となっている。施設としての学校のあり方のみを議論するので、その後の教育のあり方についてはほとんど議論されない。 そこで、私たちは財政的にも児童数的にもまだ余裕がある段階で、地域にとっての学校、地域にとっての教育をもう一度話し合うことが大切と考えたため、いわゆる素案を出さない方法を検討している。 (学校教育課長) 様々なアイデアに感謝する。託児の問題を含め話し合いに出やすい環境を考えながら地域対話を実施していく。大きな枠組みで検討していくことも大事だと思うが、個別に細かく丁寧に様々の方とお話することが大事だと感じている。悩んではいるが、これからの子どもたちの環境をより良くしていくためにどうすればいいのか、人口も減少し、施設の老朽化も進み、財政的にも厳しい面が多々あるが、その中でもオール茅野としてどうあるべきか検討していきたい。
小学校のあり方についての地域対話の具体的な日程を教えてください。小学校の保護者だけでなく、子育てをしている保護者、中学校、保育園、地域の若い方の話も聞くということだったが、まとめて開催するのか、バラバラで開催するのか。	(教育課長) 今、具体的な日時はお話しできないが、PTA会長と最初にお話しができたかと考えている。地域対話を一度や二度で終わらすのではなく、幼稚園、保育園、小学校、中学校の保護者へ先にお話をさせていただいたと思い検討している。まとめて開催かそれぞれ開催するかについては、現在検討中なので、今しばらくお待ちいただきたい。

移住者のターゲットはどの年代をメインに考えているか。近年私の区内で移住してくる人は、シニア世代のリタイヤした方がほとんどで、子育て世代は少ないので、ある程度ターゲットを絞ってはどうか。学校の統廃合は仕方ない状態に来ていると思うが、佐久穂の大日向小学校や軽井沢の風越学園など日本中から生徒が集まっている事例もあるので、参考にしてはどうか。統廃合は、もう待ったなしだと思う。

(市長)

移住者のターゲットは、30代から40代をターゲットにしているが、なかなかそこだけというわけにはいかないというのが現実。グリーンヒルズヴィレッジや旭ヶ丘は去年完売できたが、シニア世代が多かった。旧集落へ入ってくれる方は少ないかなと思っている。そういった長年売れなかった団地が全部販売できたので、今年から空き家対策に力を入れ始めた。現在、空き家バンクを構築中であり、地元の宅建協会と連携して空き家をうまくご利用いただけるような体制を作れればと思う。

学校の課題検討についても、一気に行うと必ず弊害があるので、皆さんと話し合いながら、タイミングを見極めていきたいと思っている。ただ、いろいろなケースが想定されるので、ご意見などをしっかりと念頭に置きながら検討できればと思っている。保育園を例に挙げると笹原保育園が私立に移行して市外の方々も通園されているので、私立を排除することなく検討を行いたいと考える。

(教育長)

特色ある学校も検討要素。茅野市の縄文のビーナスプランを踏まえて私立学校の検討も行う必要がある。

入区について

意見要旨	説明・回答要旨
地域へ入ってこられる方が区に入区しない。当然、任意団体なので、説得はするがご了解いただけない問題で非常に悩んでいる。入区するかしないかの判断基準として、ゴミの問題があると思うが、市へ確認したところ、入区の有無は関係なくどこへ捨ててもよいとのこと。そうなると入区する意味も無いということで、入区いただけないことが増えている。何かお知恵をお借りしたい。	(市長) 茅野市中で問題、課題になっている案件。入区していただけない理由も区によって背景が異なる。区の役が多過ぎることや、出不足金などが課題になっている。そういったところの解決策も各区、自治体でモデル事業を使って示していければと考えている。いくつかの区ですでに動きが始まっていて、財産区運営の役員が私より若い方のところもあれば、サラリーマンをしながら体制作りをしているところもある。また、DX化を一生懸命進めているところもある。ごみの問題について、どこへ捨ててもよいとは回答していないと思うが、対応について徹底していく。 (美サイクルセンター長) 可燃ごみのステーションは、各区、自治会の皆様にご協力いただき設置、維持管理をお願いしてる。なので、ステーションを利用するには、各区、自治会のきまりに従っていただくことになる。市としてもそのようにご案内をしている。 (副市長) 入区については、様々な課題がある。区、自治会自体はパートナーシップのまちづくり推進課が扱っている。昔から葬式と火事には、地域が一体的に関わってきたと言われている。葬儀はセレモニーセンターでできるようになったが、災害時には地域の繋がりが必要不可欠。また防災については、少子化により区役員の負担が増えていくなかで、仕組みや仕事を見直していきたい。
区に入るメリットがないので、市に考えていただきたい。例えば温泉施設の入浴券を入区者に配布するなどは魅力的かと思う。	(市長) 入浴施設に限らず、入区者に恩恵があるようなことを検討していきたい。
出払いについて、私たちの地区では草刈の出払いを年に2回やっているが、山間地は急激に高齢化が進んでいて、このような景観維持はおそらく5年先、7年先にはできない。今、草刈の出払いについては、資源保全管理会の多面的支払機能交付金から手当が出て、中山間特別支援金で機械を出して草刈等を機械でやっている。草刈は景観維持の目的があると同時に、ごみの投棄やシカの住処になることを予防できる。ただ、人手が足りないことは非常に問題である。茅野市の農林課は農地の管理に関してはうるさいことを言うが、土手の管理や水路の管理については、全く金にならないからなのか農家や地区がやっている。このことは行政で理解いただき、手を打っていただきたい。	(市長) 草刈の問題は大変な状況であることは認識している。今までシルバー人材センターに道路の草刈をお願いをしていたが、定年が延長になり、シルバー人材センターに新人さんが来ない状況のため、今年から道路の草刈はシルバーでは対応できないとのことで、建設業者をお願いしている状況。水路と土手は基本的に土地改良区も関係してくるので、皆様とお話をする中で考えていかなければいけないと考えている。いずれにしても、何か良い方法を考えていければと思うので、またご指導いただければと思う。

バスの遅延について

意見要旨	説明・回答要旨
子どもが通勤通学バスを大変便利に利用させていただいている。今日の出来事で茅野バスのバスが来なかった。ピアみどりで待っている人たちは、次のアルピコのバスに乗る状況だった。バスの運行状況の確認をするところはなく、市役所に電話すると、宿直に茅野バスへ電話してくださいといわれ、茅野バスへ電話をすると誰も出なかった。時間厳守できちんと運行するようにしていただきたい。	(市長) 大分ご迷惑をおかけし大変申し訳ない。しっかりと調査して、バス会社と対策を練っていきたい。

コミュニケーションの場づくりについて

意見要旨	説明・回答要旨
コロナ以降、飲み会が少なくなった。会議、総会の後の飲み会など、コミュニケーションの場が少なくなった。まちづくり懇談会のような場でもう一度立ち返って、そういう場づくりを話し合ってみたらどうか。	(市長) そういったコミュニケーションの場は大切だと考えているが、コロナ禍以降飲み会に対しての付き合い方が若者を中心に変わってきていると感じる。

蓼科野菜について

意見要旨	説明・回答要旨
蓼科野菜を味わうランチ会がとてもよかった。湖東地区で大きく農業をしている方もいるが、コソコソと農地を大事にしながら農業をやられている方が年齢、出身を問わずいることをとても肌で感じている。そのようなランチ会を各地区で開いていただければ、自分で作った野菜が美味しく食べてもらえるという実感が生まれて、農地を守っていくような気持ちになると思う。	(市長) 蓼科野菜のブランディングは年金プラス5万円を目指すことがきっかけになっている。直売所の皆さんとお話をしたり、ブランド化をしていくうえで、実際に野菜を作っている方々、売っている方々、旅館、ホテル、レストランの方々、そして農協などとお話をさせていただいている。いろいろな取り組みを始めて、今年から農協と市場に行って、地元の野菜の売り込みを行ったりと力を入れている。 (政策監) 野菜にはいろいろな流通がある。農協のように首都圏で市場を通して大量にすぐ出せるものもあれば、量は少ないが、例えば西洋野菜を200種類作っているというものもある。後者の場合だと、野菜ができるまで、誰が作っているのかなどのストーリーを大切なものと考え、首都圏のビストロ、高級レストラン、ホテルなどに需要がある。この地域の可能性は、このような小ロットでも個性的なものが重要になってくると思う。無機質な都会でシェフは季節感等を伝え、できるだけ魅力的なものにしようとしている。子育ての世代の親が移住して、子どもたちに有機の安全安心なものを食べさせたいという意識が盛り上がってきているので、今後高付加価値なものになっていく可能性がある。4月からシェフ経験のある地域おこし協力隊員を雇い、農家とレストランをつなぐ、すなわち、作付指導から流通までをつなげていくことを計画している。 (市長) 温暖化が進んでいて、良質の野菜や果物の生産地域が変わってきている。金沢地区で収穫されるリンゴの評判が良くなり、すぐに売り切れてしまうような状況。東京や名古屋で就農イベントがある時には、暖かくなってお米も野菜もどんどん美味しくなる、と若い人達に訴えている。ふるさと納税の返礼品としても人気が出るのではないかと思っている。

DXについて

意見要旨	説明・回答要旨
茅野市が進めるDXは、スマホを使えるご高齢の方が多くいる事が大切。いろいろな形でスマホ教室などを開いていただいているが、今より丁寧にわかりやすく、高齢の方がデジタルに慣れることができる機会を作っていたらと思う。	(市長) 先日中央病院まつりで介護の事業者たちが集まってイベントを開催し、高齢の方々は非常に楽しそうにタブレットを操作している姿があった。難しい問題だが、継続的に取り組んでいきたい。

消防団について

意見要旨	説明・回答要旨
4月から湖東分団の再編で三部制になり負担が増えように見えるが、ポンプ操法の練習の際には一部の人が三部の若い人に教える姿が見られたり、分団での懇親会・慰労会も再編で人数が52名になったり非常に良い交流ができていると思う。また、泉平で火災があったが、湖東分団47名中25名が出動した。非常に誇らしく思う。 ここからが要望で、人手不足で団員の新陳代謝がなく、いつ退団できるのか不安を持っている団員がいる。ぜひ行政区の皆様、消防団加入について、消防団に任せきりではなく寄り添いながら、勧誘をお願いしたい。	(市長) 湖東分団もとてもよくやっていただいていると思う。みんなで工夫して、難しい課題を乗り越えていかなければいけないと感じている。

学校整備の予算について

意見要旨	説明・回答要旨
本年度湖東小学校では、PTAのお金と先代の皆さんが積み立ててくださったお金で、校庭の整備を実施した。そういう費用が役所から出てこないの、今回は校舎改築のときの積立基金の残りとPTAの会費で実施した。もう少し学校環境の整備にお金を出していただきたい。	(学校教育課長) 小学校、中学校区別することなく、必要なものを、学校長や事務職員から聞き取りながら予算計上を行い、必要なものはきちんと予算をつけるように努めている。PTAからも要望をいただくこともあるが、学校を通じて教育委員会にお寄せいただきたい。